

柏市民活動ニュースレター

2020年10月発行 第18号

ウィズコロナでの市民活動の再開！

新しい市民活動スタイルをみつけよう～大切な活動、つながりを守り続けるために～

2020年も、あっという間にあと2カ月になりました。皆さん、活動の方はいかがでしょうか？新型コロナウイルス・緊急事態宣言時には、活動の中止や延期が余儀なくされました。5月末には解除されたものの、現在でもなおコロナが収束しない中での活動です。感染予防に努めていれど、「どうやって活動を続けたいのだろうか？」と迷いや不安を抱える団体の皆さんも少なくないでしょう。まさにこれからは、【ウィズコロナでの市民活動】を開拓していかなくてはなりません。いかにこの現状を受け入れ、向き合い、適合する活動スタイルを見つける—それらには完全な方法や答えはなく、柏のまちを愛し、市民活動に取り組む者同士、みんなで一緒に考え、共有していけたら良いのではないのでしょうか。

【市民活動サポートコーナーでは、感染対策に細心の注意を払いながら、事業を再開しました！】

- ①市民活動講座を2回開催（7月、9月）。今後、11月・1月に開催予定です。
- ②協働まちづくり提案制度の運用を開始し、協働まちづくりサロンを2回開催（8月、10月）。今後、12月に開催予定です。協働まちづくり提案のアイデアも募集中です！！
- ③お待たせしました！2020年度柏市民活動フェスタ&ぼかぼか市を11月に開催します。

活動ができなかった期間は、「これまでの活動を振り返る機会」と前向きに捉えましょう。そして、これからは大切な活動やつながりを守り続けるため、工夫して前に進んでいきましょう！市民活動サポートコーナーも、そんな皆さんの活動の後押しができれば幸いです。

<目次>

1. 巻頭 新しい市民活動スタイルをみつけよう～大切な活動、つながりを守り続けるために～
2. 柏市民活動講座『ウィズコロナ時代の“協働”を考える』
3. 柏市民活動講座『ICTを活用した新しいNPOのカタチ オンラインツールを使いこなそう』
4. 協働まちづくりサロン 『今こそ一つに！柏の三位一体』（テーマ：まちづくり）
『子どもの育ちと居場所づくり』（テーマ：子ども）
6. 提案募集：～多様な市民による多彩な連携～新たな「協働まちづくり提案制度」の運用が始まりました
7. 協働推進課からお知らせ：
8. サポートコーナーからお知らせ：2020年度柏市民活動フェスタ&ぼかぼか市の開催について

『ウィズコロナ時代の“協働”を考える』

講師：ジェイ・ドッグ・カンパニー 代表 影山貴大 氏

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本年3月以降、市民活動サポートコーナーの事業が殆ど止まっていますが、8月1日に感染拡大対策を講じながら、今年度第1回の市民活動講座を開催しました。テーマは、ずばり「ウィズコロナ時代の“協働”を考える」

<1> 開催概要

- 開催日時：2020年8月1日（土）
13時30分～16時30分
- 開催場所：パレット柏 多目的スペースA
- テーマ
～ウィズコロナ時代の“協働”を考える～
- 講師
影山 貴大 氏
・鎌ヶ谷市プロジェクト
マネージャー
・合同会社 J-doc
company 代表社員
- 参加者：9人



<2> 講座の内容

【第1部】 講演（要旨）

～ウィズ コロナ時代の『協働』を考える～

- ・行政と対等な立場で公共を担っていく「自立したNPO」の必要性が高まっている中、新型コロナウイルスによってつながりの分断が助長されてしまった
- ・とはいえ「協働」の本質は全く変わらないポイントは、いかに「関係性構築」を行うか
- ・オンラインの活用は避けられないむしろうまく活用すれば、今まで出会えなかった人たちとのつながりも作れる
- ・多くの人たちとの出会いは、協働による課題解決に不可欠な客観的な視座や様々な既存知の獲得にもつながる
- ・刻一刻と状況は変わっていく中、重要なのは歩みを止めないこと

＜ウィズコロナ時代の協働事業例＞

【啓発事業】オンラインによる情報発信や場づくり

【草の根事業】少人数の運営メンバーでの少人数に対するアプローチをベースにする



【第2部】 ワークショップ

～レゴブロックを使って、協働に必要な『関係性』を考える～

- ・第2部では、レゴブロックを使ったワークショップを開催。お題は「あなたの考える“協働”をレゴブロックで表現せよ！」
- ・受講者の皆さんは、この難しいお題に果敢に、かつ楽しそうにチャレンジし、オモイをカタチでしていました。
- ・講座終了後のアンケート調査では、全員が「レゴブロックを使ったワークショップは楽しかった・役に立った」と回答していました。



【第3部】 「協働まちづくり」に関する柏市の新しい取組みの説明（柏市より）

- ・講座の最後に、柏市より、「協働まちづくり」に関する新しい取組みの説明がありました。
- ①「市民との協働に関する指針」の改訂
- ②「協働のまちづくりハンドブック」の作成
- ③「協働事業提案制度」の見直し

9/12
柏市民活動
講座

ICTを活用した新しいNPOのカたち オンラインツールを使いこなそう 講師：一般社団法人 ICT 能力開発協会 青山 司 氏

市民活動サポートコーナーでは、団体運営に必要なICT（情報通信技術）スキルの向上を目的に、一般社団法人 ICT 能力開発協会・名誉講師の青山 司 氏を講師にお招きし、毎年講座を行っています。今年度は『ICTを活用した新しいNPOのカたち～オンラインツールを使いこなそう』をテーマに、ICTをうまく取り入れて、オンラインでの活動に「適応」する知識を身につけるため、組織運営に役立つICTの利活用、Googleサービスにおけるオンラインツールの使い方などを学びました。

ウィズコロナ時代、私たちは、それぞれの日常生活に合った「新しい生活様式」を実践していくこととなります。これは市民活動においても同じです。この状況のなかで、活動をそれほど止めることなく、しっかりと前に進んでいくためには、ICTをうまく取り入れた活動がひとつの方法です。“仲間と繋がれる仕掛け”、“会議やイベントができる環境”など、様々なサービスの活用が市民活動を後押ししてくれるでしょう。

青山氏によると、パソコン上で複数人がリアルタイムに共同編集や作業を行うには、クラウドサービスを活用することがそれらを可能にするとお話がありました。代表的なクラウドサービスとして、サイボウズ office10、G Suite、office365 が挙げられました。

当日は、20名の皆さんに受講していただきました（会場12名・オンライン8名）。本講座での学びを積極的に取り入れ、活動に活かしていってほしいものです。



2020年度 柏市民活動講座 主催 柏市民活動サポートコーナー
～これからの社会を創っていくのは、地域で活動する私たちです～

ICTを活用した新しいNPOのカたち オンラインツールを使いこなそう

組織運営に役立つICTの活用、
オンラインツールの使い方などを
学びます。（※日パソコンをお持ちください）

新しい生活様式
仲間と繋がれる仕掛け
会議やイベントができる環境

日時 9月12日（土）13:30～17:30
（開講・講義は別途あり）
場所 パレット船 多目的スペースA
対象 市民活動や地域活動など、
様々な活動に取り組みたい個人、
ICTを活用してみたい方、etc.
定員 12名（先着順） 参加費無料
※本講座は定員に達しない場合があります
※定員超過の場合は抽選となります

講師 青山 司 氏（一般社団法人 ICT 能力開発協会 名誉講師）
本講座は、本学が主催する市民活動サポートコーナーにて、ICTを活用した新しいNPOのカたちをテーマに、毎年開催されています。今年度は、『ICTを活用した新しいNPOのカたち～オンラインツールを使いこなそう』をテーマに、ICTをうまく取り入れて、オンラインでの活動に「適応」する知識を身につけるため、組織運営に役立つICTの利活用、Googleサービスにおけるオンラインツールの使い方などを学びました。

問合せ・申込先 市民活動サポートコーナー（電話 04-7163-1143）
〒277-0833 千葉県柏市中央1-1-1 市民活動サポートセンター
TEL 04-7163-1143 E-MAIL skoe@city.kashiwa.chiba.jp

■ 講座の概要

G Suite（Google アプリ群、大体のサービスが無料で利用可能）の中で、

「コミュニケーション」→Meet、チャット、classroom の活用、
「コラボレーション」→スライド、ドキュメント、ドライブ
での共同編集・作業の方法、

「マネジメント」→フォーム、スプレッドシート、カレンダー
でのアンケート・分析・スケジュール管理の方法 などを、
講義と実習で学びました。（講義時間 13:30～17:30）

みなさんも、様々な Google サービスを活用してみませんか？

協働まちづくりサロンを開催しました (8/27、10/9)

令和2年度改正；柏市協働まちづくり提案制度の運用にあたって、「多様な課題と取組の掘起こし」に向けた市民と市の間での情報共有を目的に、【協働まちづくりサロン】の開催を始めました。このサロンでは、市民公益活動団体等と市の事業担当課が、お互いの取組みや課題を知り合う（共有する）建設的な情報交換の場として位置づけられています。

(※パレット柏にて開催)



【第1回】今こそ1つに！作ろう柏の三位一体～柏の葉、柏駅前、沼南エリアのコラボで 次世代の「柏らしさ」を考える～ (テーマ：まちづくり)

日時 8月27日(木) 16:00～18:00

内容 柏の3エリアの特色と将来像・課題、柏市全体の商工業・観光等の取組みについて情報共有。
『柏の葉、柏駅前、沼南エリアのコラボで次世代の柏らしさを考える』というテーマをもとに
これからの柏のまちづくりを考える。

発表者・柏の3エリアの特色と将来像・課題について 農政課、商工振興課、北部整備課
・柏市全体の商工業・観光等の取組みについて 中心市街地整備課
・話題提供 柏の葉サイエンスエデュケーションラボ 羽村太雅氏

参加者 会場 14名、オンライン7名

参加者アンケートの声；(一部抜粋)

Q1. このテーマに関連して、あなたが優先的に取り組むべきと思う課題はなんですか？

- ・柏全体の情報共有、活動の周知。世代間交流。柏市内の心理的・物理的アクセスの向上
- ・地域の活性化のための施策の実施。効果的な情報発信の方法
- ・情報発信、連携、集積する団体？組織作り？スキーム作り
- ・羽村さんが最後にまとめてキーワードとして出ていた「情報を届ける」とありました。市民の方にもっと知ってもらいたい。体験してもらいたい。知って体験してもらうことは、市民の方へも有益だと思っています。

Q2. 自分(所属している組織)が、すでに行っていること、今後できそうなことは何ですか？

- ・高校生の起業体験プロジェクト。国際交流イベント(地域生活者同士)。教育分野で協力出来たらいいなと考えています。
- ・社会教育等のNPOに属しているが三世代交流事業に継続的に取り組む

【第2回】子どもの育ちと居場所づくり（テーマ：子ども）

日時 10月9日（金）13:30～16:30

内容 子どもの育ちや若者の自立を地域で支えていく取り組みを
さまざまな立場の人が集まり協働の視点から考える。

発表者・柏市の子ども環境と課題・柏市各課の取り組み

こども福祉課、子育て支援課、生涯学習課

- ・基調講演 「貧困世帯の子どもの支援と居場所づくり」

渡辺由美子氏（NPO 法人キッズドア 理事長）

- ・活動事例 「子育て世代への支援と子どもたちの学習支援」

山下智穂美氏（まつばスマイルネットワーク 代表）

- ・意見交換 コーディネート 三好玲子氏

（かしわ子育てまちづくりネットワーク・ここっと 代表）

柏市における課題の整理、協働で取り組むべきテーマ、

実現するために必要なこと

参加者 会場 10名、オンライン 14名



参加者アンケートの声；（一部抜粋）

Q1. このテーマに関連して、あなたが優先的に取り組むべきと思う課題はなんですか？

- ・参加する関係者とのネットワークづくり→顔の見える関係を構築して課題を考える体制づくり
- ・子どもたちの居場所となり得る場所を少しずつでも増やしていくこと、またそれを支える人材を見つけてくること
- ・地域の多くのリソース（人）とつながっていく
- ・現在、柏市役所各部署が行っている「子どもの居場所事業」について、全体的に俯瞰し、見直したり調整したり、良いところを共有すること。

Q2. 自分（所属している組織）が、すでに行っていること、今後できそうなことは何ですか？

- ・小中高校生の居場所検討→現状は乳幼児メインの施策となっている。
- ・地域の情報発信の拠点となれるようなつなぎ役の役割を担っていくことができればと考えています。
- ・今日みたいな会合を、一回限りにしないで、引き継ぐ組織が必要。また、いろいろな活動を全体的にみられる見える化が必要。こうした中間支援機能をどこかで担い、行政も応援してほしい。

この「協働まちづくりサロン」で話し合われた課題、それを解決するために必要だと感じた取り組みやアイデアが、今後ひとつつでも多く、柏市における「協働まちづくり事業」に繋がっていくことを期待しています！

【これからの開催予定】

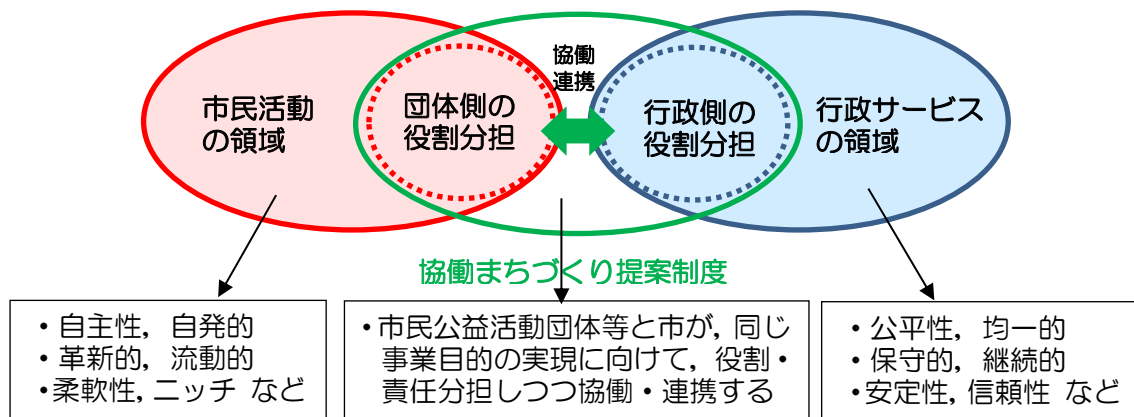
第3回：市民による災害対応と支援受け入れ（仮称）（テーマ：防災・災害救援）

～多様な市民による多彩な連携～
新たな「協働まちづくり提案制度」の運用が始まりました！
市民公益活動団体からの提案を募集しています

令和2年度から運用を開始した「協働まちづくり提案制度」は、前身の「協働事業提案制度」と同様に、市民公益活動団体と市が、同じ事業目的の実現に向けて、それぞれの特長を活かして、役割と責任を分担しつつ、協働・連携してまちづくりに取り組む制度であり、この度、市民公益活動団体の皆さんがより活用しやすいように制度改正したものです。

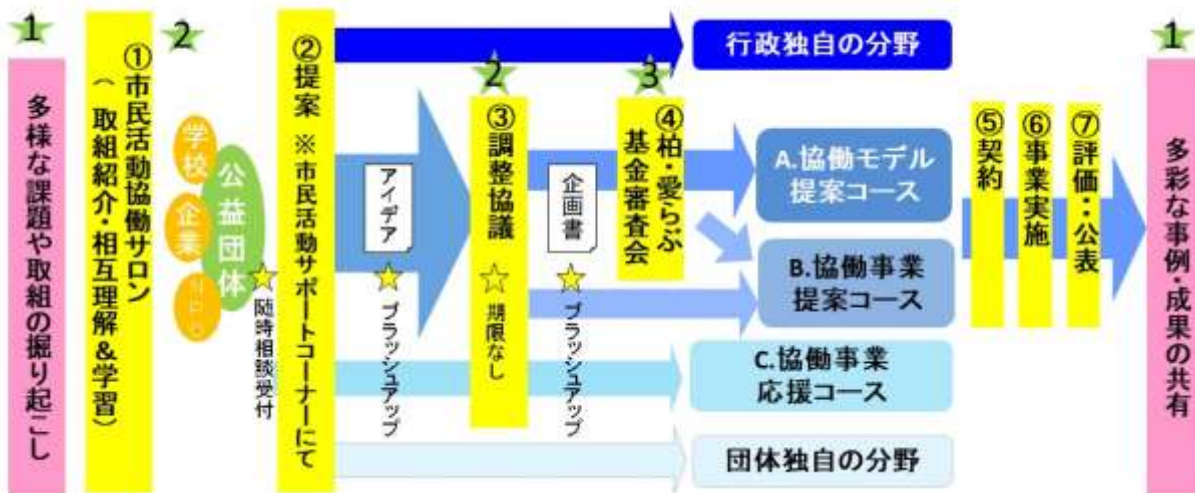
皆様からの積極的な「協働まちづくり提案」をお待ちしています。【随時募集】

■協働まちづくり提案制度の領域



制度改正の主なポイントは以下の3点であり、提案から成案化に至る流れは下図の通りです。

- 【ポイント1】 事業提案のベースとなる行政課題や協働ニーズを共有します。
- 【ポイント2】 多様な協働コースを用意し、協働まちづくりをサポートします。
- 【ポイント3】 随時受付、協議期限なし等、制度運用を柔軟に行います。



●詳しくは、市民活動サポートコーナーにお尋ねください。

また、市のホームページをご覧ください。

<http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/400100/p054263.htm>



「柏・愛らぶ基金」の登録団体になりませんか？

柏・愛らぶ基金は、市民の皆さんの寄附で、柏市の市民公益活動を支える制度です

「柏・愛らぶ基金」（正式名称：柏市民公益活動促進基金）とは、市と協力して寄附を集め、翌年度に柏市民公益活動支援補助金として交付を受けるための登録です。

登録を行うには、登録資格の基準を満たし登録の申出を行う必要があります。詳細は柏市ホームページにも掲載されておりますので、下記 QR コードより読み取りを行い詳細をチェックしてみてください！⇒[柏市民公益活動促進基金（柏・愛らぶ基金）－登録する](#)



現在、25 団体の市民公益活動団体が、柏・愛らぶ基金に登録して活動しています。登録団体の皆さんは、寄附を集めるため、日頃から団体の HP を充実させたり、イベント等に参加して PR を行ったり、活動を積極的に外部へ発信しています！

登録団体の一覧→



基金団体に登録すると、市が団体の活動内容を柏市ホームページやイベント（ポスター展示開催）などで積極的に発信します。市の制度の中で広く活動を PR することで、団体の信頼度も深まり、また市民からの寄附を補助金として事業に活用でき、登録することのメリットも多いです！



市民活動フェスタや、ぽかぽか市などのイベントで多くの市民の皆さんに活動をアピールし、自分たちの団体の活動をみんなに知ってもらい、団体の活動資金となる寄附と一緒に募りませんか？



【問合せ先：協働推進課 TEL ☎ 04-7167-0941】

2020 年度市民活動フェスタ&ほかほか市の開催について

2020 年度のフェスタ開催に当たってはこれまで市民団体の皆様にはいろいろなご心配をおかけして参りましたが、いよいよ 11 月 23 日（月）フェスタ&ほかほか市を開催する運びとなりました。

2020 年の市民活動フェスタの実施に当たっては 2019 年の 7 月より実行委員会を立上げ、（実行委員長：逸見隆夫 生涯現役ときわ会）例年通り 5 月の開催を目指しておりましたが、ご承知の通り、2 月以降のコロナ感染拡大防止面から延期を与儀なくされておりました。

コロナ禍の判断は今だ難しい面もありますが、コロナとの共存を考えた場合、これまでに培われた防御策を講じていけば、実行することも可能との判断をさせて頂きました。イベント開催に際し、最大限の感染防止対策が求められますので、参加団体の皆様のご理解とご協力をお願いします。（来年度以降の参考にもなる。）

【感染対策の細心の注意について】

新型コロナウイルス COV I C-19 感染対策の注意点は参加頂く団体の皆様には開催会場共通の注意点と会場ごとの注意書きをお渡ししておりますが、当日お越し頂く **お客様については参加団体の皆様から注意事項をお報せ**し、協力してもらいながら、参加団体と一体となって、実りのあるフェスタ&ほかほか市として成功させればと思います。

各会場の共通のチェック点

- ・マスク着用
- ・濃厚接触にならないよう互いの距離を確保する（密集状態を避けるため、区画に滞在する人数を 4 人までに工夫する）
- ・接触確認アプリ COCOA のスマホへの登録
- ・発熱、体調不良者は参加を控える
- ・手指の定期的な消毒

編集・発行

2020 年 10 月発行

パレット柏 市民活動サポートコーナー
及川愛二 / 鬼山恵子 / 砂原成治 / 松清智洋

〒277-0005 柏市柏 1-7-1

DayOne タワー 3 階

TEL 04-7163-1143 / FAX 04-7163-1147

shiminkatsudo-c@city.kashiwa.chiba.jp

<http://kashiwanpo.genki365.net/>

窓口開設時間

9:30~17:45 年末年始休館

（※パレット柏の開館時間は 8:30~21:30）

編集後記

【情報発信の大切さ】

私たち市民公益活動団体は、日々活動する中で、悩みや困り事に直面することがあると思います。「イベントの集客を効果的に行いたい」「活動の賛同者を集めたい」、そんな時、皆さんは何を行いますか？ 8 月 27 日に行われた協働まちづくりサロン（本誌 P.4）においても、様々な活動をする上で、多くの人に「情報を届ける」ことが大切であるという話題になりました。情報を発信することで、活動に多くの人からの共感が生まれ、そして新たな協働が生まれるかもしれません。ウィズコロナでの市民活動では、まさに【情報発信の大切さ】が重要になってくるのかな？と思う、今日この頃です。（編集：鬼山恵子）